

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600361		
法人名	有限会社 夢家族		
事業所名	グループホーム 夢家族 柳津		
所在地	岐阜県岐阜市柳津町丸野5丁目47番地		
自己評価作成日	令和5年9月30日	評価結果市町村受理日	令和5年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170600361-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和5年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は認知症についての理解を深めプロ意識を持つことを目標にしています。毎月のミーティングで認知症について学ぶ時間を設け職員で共有しています。各入居者様への理解を深め、笑顔あふれるホームになるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者全員が顔を合わせて、一日の大部分を明るい居間で穏やかに過ごせるよう、環境を整えている。玄関前にはテラス、裏には広いベランダがあり、外気浴をしながら気分転換が出来る。職員は担当制でケアに努めており、利用者の様々な状態や気持ちに寄り添いながら、その人らしく暮らせるよう支援している。職員の世代間ギャップはあるが、皆が同じ方向性を持って支援に努めている。管理者は、キャリアパス制度を導入し、チャレンジシートを使いながら職員一人ひとりの介護スキルの向上に取り組んでいる。また、職員全員に人間学の雑誌を配布し、利用者の人生に向かい合った介護を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼・夕礼で理念を唱和しています。又、理念をもとに事業所単位で1年の目標を立て、その目標達成のための取り組みを各職員がチャレンジシートで実践しています。	法人理念と共に、今年は「認知症について理解を深め、プロ意識を持つ」を目標に、支援に取り組んでいる。日々、認知症を学ぶことで、利用者が安心して生活できるよう、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	境川地域包括支援センターが立ち上げた、シルバーまちかど相談所に登録しました。地域の方々の第一相談窓口として安心感を持ってもらえる存在になっていけたらと思います。	地域との交流を進めていく第一歩として、4月に介護の窓口を登録し、「シルバーまちかど相談所」の看板を掲げている。窓口を足掛かりに事業所をアピールしながら、地域との交流を深めていこうとしている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	しばらくコロナ禍で書面会議でしたが、6月より対面で会議を実施しております。現状の報告を行い、市役所や地域包括支援センターの方々にアドバイスをいただいています。	運営推進会議は、利用者が過ごしているホールで開催している。対面ではあるが、コロナ感染予防対策として、短時間にて行っている。現状報告事項や委員会の活動状況を伝えて意見交換をし、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は、地元の情報を収集しながら、協力関係を築くことが出来る機会である。地域に根差した事業所として運営していくために、自治会役員や地域の住民等の参加を得られる工夫に期待したい。
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて、市役所や地域包括の方にも参加していただき事業所の取り組みや実情を伝え意見を頂いています。	市の担当者には運営推進会議への参加を得て、事業所の実情を伝えている。身近な地域包括支援センターとは、連絡を密に取り合っアドバイスを受け、良い関係が出来ている。地域包括支援センターで開催される研修にも積極的に参加している。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のミーティングで話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。安全上テラスから外へは出られませんが、玄関のカギは施錠せずテラスへは自由に出入りできるようにしています。	同法人の5事業所と合同委員会を開催し、報告書については、毎月のミーティングで職員全員に周知している。自由に出入りができる玄関前のテラスは、フェンスで囲まれてはいるが、利用者の安全を考慮して施錠している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	7月に地域包括による虐待防止研修がありました。不参加の職員に対してもミーティングにて報告、周知しています。	7月より、接遇委員会開催時に虐待防止委員会を兼ねて実施している。地域包括支援センターや法人で開催する研修に参加し、全職員で資料を回覧して虐待を見逃さない体制に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している入居者様がいるので職員はある程度理解していると思いますが、きちんと学ぶ機会を設けていきたいと思っています。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の面談にて十分な説明を行い、理解・納得していただいた上で契約しています。年に一度の担当者会議の際にも、家族の不安や疑問をお聞きするようにしています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度、担当者会議を開き、家族に現状をお伝えした上で、意見や要望をお聞きしています。その内容は議事録に残し、職員に周知しています。又、運営推進会議にも参加していただけるよう、お声掛けをしています。	コロナ禍であっても、玄関前のテラスで短時間面会を行っていた。今は、利用者の居室で面会を実施している。来訪時には家族に声掛けをし、意見や要望を聞いている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼・夕礼、毎月のミーティングで職員の意見を聞き運営に生かしています。意見箱を置き、話づらいことも匿名で言えるように配慮しています。	職員は、日々の気づきや意見を出し合い、管理者が不在の時には電話で報告している。管理者と職員は、互いの意見を尊重し合い、風通しのいい関係性が出来ている。意見箱は法人の事務方が回収し、主任会議で話し合っている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	年2回のテストや自己評価・他者評価、日々の勤務態度をよく把握した上で評価、又、家族状況に配慮した勤務体制を取るようになっています。 有給取得率100%を目指しています。	法人は、岐阜県ワーク・ライフ・バランス推進企業として登録されている。休憩時間は、午前、昼、午後と合わせて1時間確保するなど、仕事から離れた時間の必要性を認識している。また、有給取得率などを把握し、働き方にも目標を掲げている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人独自のキャリアパスという勉強会、また年2回の社内テストでスキルアップに努めています。 資格取得の支援、部外研修への参加もあります。	介護に関する4つの委員会の他に、テニス、ウォーキング、園芸といった部活動があり、仕事以外の楽しみを設けている。代表が提案する人間学の雑誌から、人を育てる取り組みとして、職員同士で学び合えるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	境川地域包括による研修会を通じ、他法人の方々と交流する機会があり、積極的に参加させていただいています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、出来る事は職員と一緒にいき、共に支えあっている事を感じて頂いています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ミーティングの場での職員の気づき及び記録・生活状態見ながら、出来る限り本人の希望に添えるように努めてはいる。	夜間は1対1での会話も多く、職員は利用者の思いを聞くことが出来ている。生活記録にも記入して残している。ケアマネジャーも週に1度、事業所に入り、利用者に声かけしながら、思いや意見を聞いている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングの場での職員の気づきを聞き、家族の面会時に話し合った事柄を伝達を元に出る限り現状に即した介護計画を作れるように努力している。	ケアマネジャーは、全員参加のミーティングで、職員が把握している家族や利用者の情報を聞き、さらに毎日の生活記録を確認しながら、介護計画を作成している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティング等・生活記録の確認などで情報交換をしている。	職員が担当制で利用者のケアをすることで、深く寄り添うことが出来、利用者の様子を把握しやすくなっている。介護計画と記録をチェックしながら、次に繋げている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	担当制にすることによって、各担当者がそれぞれの入居者の変化に気づきやすくなりました。	オレンジカフェに参加したり、囲碁教室に同行するなど、事業所以外の環境で刺激を受けられるよう支援している。利用者にとっても、新たな楽しみや交流ができています。コロナ禍以後は、理美容師に代わって、職員が理髪をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	最近ではコロナで禍で外部からの支援は消防訓練等最小限にとどめていましたが、今後は地域との交流を再開していきたいと思えます。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医の往診があり、それ以外でも何かあればすぐに相談し対応しております。受診の必要がある時は、ご家族様にも協力をお願いしています。	かかりつけ医については、希望を優先しているが、今は、ほとんどの利用者が協力医を選択している。基本的には、月2回の訪問診療と訪問看護で医療の支援をしている。日常的に何かあれば、24時間対応の看護師に連絡し指示を受けている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院とは密に連絡を取り、可能な限りの面会やカンファレンスへの参加も、早期退院への受け入れ準備を行っています。	協力医には入院施設もあり、看護師と共に連携が取れている。病院と連絡を取り合って利用者の状態を確認し、退院後の受け入れについて事業所内でも話し合い、利用者・家族の安心に繋げている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に本人や家族に終末期についての意向をお聞きし、担当者会議の時にもその都度確認しています。今後、エンディングノートも活用していく予定です。	終末期については、入居時に説明して確認しているが、現実としての理解を得られていないケースもある。利用者・家族、職員等で、事業所で出来る支援について話し合いながら、理解を求めている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	キャリアパスで救命対応について学んでいるが、定期的な訓練は行えていません。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災訓練と水害訓練を行っています。火災については、日中・夜間それぞれ想定した訓練を行っています。水害については、他事業所への移動し、2階への避難を実際行っています。	防災委員会が主体となって災害対策を行っている。避難訓練については利用者也参加して共に行っている。緊急時の対策については、近隣の環境を調べ、協力関係を築くための検討をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や生活スタイルを把握し、その人に合った声掛けや対応を心掛けています。特に排泄の場面では、プライバシー保護を心掛けています。	法人全体で接遇委員会や介助力向上委員会を開催している。常に、利用者を年長者として敬う介助を実践している。利用者が嫌がることや個々のこだわりは職員全員で共有し、対応している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が何を思い、どう行動したいのかよく観察し、寄り添うようにしています。特に言葉での意思表示が難しい方には、ちょっとした体の動きや表情を注意深く観察するようにしています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで過ごして頂くことを優先しています。居室で休息したい、散歩に行きたい等集団行動にとらわれず要望に沿うよう努めています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時々、何か食べたい物はないかお聞きメニューに取り込んでいます。食事の準備は難しいが、下膳や食器洗いをお手伝いいただくことはあります。毎月のおやつレクでは、役割分担しながら一緒に作っています。	食事の副食は本社から届き、事業所で主食や汁物等、手作りで提供している。敬老の日には、ちらし寿司を作って喜ばれている。利用者は、出来る人がテーブル拭きや食器洗いなどを手伝っている。職員は介助と見守りで完食に繋げている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嚥下状態に合わせて、ミキサー食や刻み食の対応もしています。水分の取りづらい方には、お茶ゼリーやスポーツドリンクを提供し水分不足にならないよう努めています。月一回体重測定を行い体重の管理も行っています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方には自分でやっていただき、必要な方には仕上げ磨きをしています。	職員が朝夕、利用者の口腔ケアとして、しっかり歯磨き出来るよう援助している。歯科医の往診も受け入れ、口腔内の清潔保持に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間はおむつ対応の方でも、日中はリハビリパンツにてトイレで排泄していただくようにしています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の曜日は決まっているが、午前・午後と本人の体調や希望に合わせて入浴を促しています。今日は入りたくないという方には、無理強いすることなく対応しています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースで休息していただいています。部屋の温度調節等気を付けています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が目につくところに薬情を保管しています。服薬ミスを防ぐため、ダブルチェックをしています。常に体調管理に努め、定期的な往診の際に相談できる体制を整えています。	利用者個々の一包化された薬は、「指導情報の提供」と共に、薬局の薬剤師から届けられている。ダブルチェックで、誤薬のないよう努めている。薬の変更のあった時には説明を受け、服薬後の利用者の体調に注意を払っている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事仕事を、出来る範囲でやっていただいています。体操や外気浴など気分転換にも努めています。	これまでの生活歴から、利用者の楽しみごとを見つけ出し支援している。囲碁教室に通う人、カラオケを楽しむ人、新聞の購読等、個々の趣味を継続できるよう支援している。また、役割として洗濯物を干したり、畳んだり、居室の片付けなど、無理なくできるよう支えている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に出かけています。囲碁のお好きな方とは週に1回囲碁教室に出掛けています。	日常的に、ゆっくり歩いて30分程度、近くの公園まで散歩に出かけている。また、小川と緑に囲まれた環境の中で、広いベランダに出てお茶の時間を楽しんでいる。春の花見や秋の紅葉見物など、車での外出計画を立てている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2名の方が少量のお金を持って見えます。自販機で飲み物を買ったり、衣類販売でお洋服を買う楽しみを持っています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話を掛けたり、家族からの電話をつないだり、その都度対応しています。携帯電話で家族とやり取りしている方も1名見えます。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月制作レクで入居者と季節ごとの作品を作り、廊下やホールに展示し、季節感を味わっていただいています。	居間を中心に、三方向に居室、トイレなどが配置され、全体を見渡せる空間である。共同で作った季節の作品や観葉植物、花が飾られている。本棚の近くには、ゆったりしたソファがあり、好きな場所で個々に自由に過ごすことができる。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人、合わない人はあるので、席の配置には配慮しています。一人になれる空間が持てるようソファを置いています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベッドや布団を持ち込む方も見えます。家族の写真を飾ったり、ご自分のお好きな装飾にされる方も見えます。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間、ポータブルトイレを使用される方には、トイレの位置や高さを工夫しています。動線上には、余計な物は置かず移動がスムーズにできるよう配慮しています。		